

「初秋の八島湿原 (7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この湿原には「ヤナギラン」も多い。ヤナギランは、日本では高原の山野草で、大きな群落はなかなか見られない。比較的珍しい植物と言えるだろう。



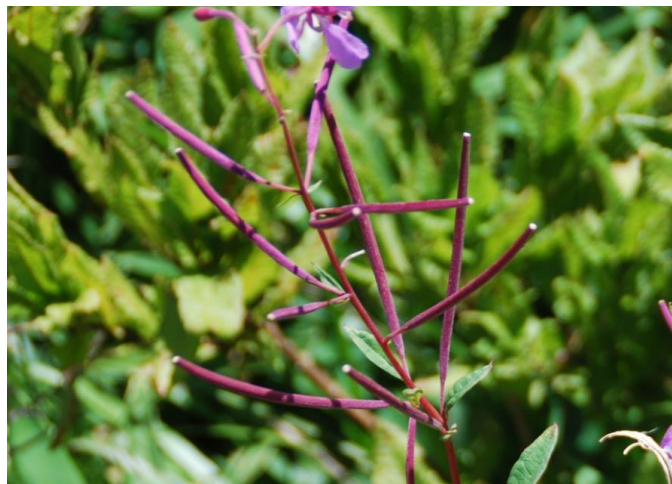
ここでは、湿った低層部から少し離れた、日当たりの良い草地に、大きな群落を形成していた。



日本では貴重なヤナギランも、北欧では平地でもごく普通の植物だ。日本の高原の気候と似ているのだろう。スウェーデンでは「ララローセン」と呼ばれて親しまれている。いたるところに咲いていて、飛行機から見ると、台地が桃色に見えることがあるほどだ。



アブラナと同じように、下から咲いていく。花より下は若い果実、上がつぼみだ。



若い果実もアブラナに似ているが、ヤナギランはアブラナ科ではなく、アカバナ科に属する。マツヨイグサ (月見草) と同じ仲間だ。



果実は熟すると裂けて、中から綿毛が現れる。この綿毛に種子がついていて、風で拡散するのだ。北欧で大繁栄しているのは、この綿毛のおかげなのだろう。